

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	キャリアガイダンス (688)				教 科 区 分	一般教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	大内 香那子・石黒 誠				実 務 経 験 内 容	
					[大内]求人情報会社にて採用コンサルティングに従事したのち、企業人事として多くの学生の選考に携わった後、キャリアコンサルタント・研修講師として活動を行っている。キャリアデザイン・ビジネスマインドセット・コミュニケーション活性を専門としており、これらの経験を活かして本授業の将来を考え、就活に前向きになるしくみを構築している。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標	
	2	-	-	-		
仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
授業形態	演習	教 室	151 教室	補助教員	なし	
就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびやふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。						
教 科 書 教 材	仕事力を身に付ける 20 のステップ FOM 出版 富士通エフ・オー・エム株式会社 著					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回	
【前期】	
1～2 回	授業の目的と振り返りシートの理解、就職活動への意識を高める
3～4 回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する、挨拶の大切さ①
5～6 回	意見をつくる個人ワーク
7～8 回	意見交換実践のグループワーク
9～11 回	自己理解、仕事理解、グループでの調べワーク
12 回	グループワークを活かし、専門学校での学びのつながりを考える
13～14 回	自己 PR が必要な理由
15 回	自己 PR 作成ワーク
16 回	前期の振り返りと自己 PR 作成の好事例共有
●授業時間：2 単位時間/回	
【後期】	
1 回	社会人とは・学校と職場の違い、学校での過ごし方で意識すべきこと、挨拶の大切さ②
2 回	組織内でのコミュニケーションにつながる学校内での過ごし方
3 回	グループ制作と発表（プレ社会人としての、学校での過ごし方の工夫）
4 回	就活スケジュール確認と先輩への質問を考えるワーク、グループワークの説明
5～7 回	就職活動トークセッション、グループ制作と発表
8 回	ビジネスマナーってなんだろう
9 回	正しい敬語を身に着けて、就活シーンに活かそう
10～11 回	履歴書とエントリーシートの書き方、応募書類の書き方
12～14 回	面接官は何をみているのか、面接で自分を表現する準備をしよう、面接体験をしてみよう
15～16 回	1 年間での成長変化・卒業後どうなっていたいか、考えよう ガクチカを作成しよう

評価コード	11	
評価方法	・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。 ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。 ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	映像特論(980)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	伊藤 有哉				実 務 経 験 内 容	
					[伊藤]ブライダル編集業務に携わってきた経験を活かし、映像のノウハウを実践的に教育する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
前期はカラーグレーディングについての知識、後期は動画制作における知識について学ぶ。						
授業形態	講義	教 室	151 教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時にプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義を行い、参考映像を視聴することもある。						
教科書 教 材	世界一わかりやすい動画制作の教科書 技術評論社 小島真也 著（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 授業進行説明、映像特論ディスカッション 3～4 回 カラーグレーディングの基礎 5～6 回 カラーグレーディングの概念 7～8 回 カラーグレーディングの歴史 9～10 回 カラーグレーディングの技法 11～12 回 カラーグレーディングの応用 13～14 回 前期授業まとめ 15～16 回 前期テスト対策 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 動画制作の基礎 19～20 回 動画制作の歴史 21～22 回 動画制作の構成 23～24 回 動画制作の撮影 25～26 回 動画制作の編集 27～28 回 動画制作の応用 29～30 回 後期授業まとめ 31～32 回 後期テスト対策	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	演出表現(981)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	川崎 慎也				実 務 経 験 内 容 [川崎]シナリオライターとしてテレビ・ラジオ番組で長年構成・台本を担当。培ってきた演出力で講義する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
演出を効果的にするための、音響や照明、映像などの要素技術を、統合的に表現する技術について学ぶ。						
授業形態	講義	教 室	151 教室	補助教員	なし	
プロジェクトで映像を見せながら、学生たちに自ら気づいた演出技法をまとめさせる。 見終わったあとに全員と共有しながら、演出技法を解説する。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 古典映画から学ぶ演出技法① 2～4 回 古典映画から学ぶ演出技法② 5～6 回 古典映画から学ぶ演出技法③ 7～8 回 古典映画から学ぶ演出技法④ 9～10 回 現代映画から学ぶ演出技法① 11～12 回 現代映画から学ぶ演出技法② 13～14 回 現代映画から学ぶ演出技法③ 15～16 回 現代映画から学ぶ演出技法④ ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 ドキュメンタリー番組から学ぶ演出技法① 19～20 回 ドキュメンタリー番組から学ぶ演出技法② 21～22 回 バラエティ番組から学ぶ演出技法① 23～24 回 バラエティ番組から学ぶ演出技法② 25～26 回 報道番組から学ぶ演出技法① 27～28 回 報道番組から学ぶ演出技法② 29～30 回 まとめ① 31～32 回 まとめ②	

評価コード	3
評 価 方 法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	照明表現(982)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	酒井 早穂				実 務 経 験 内 容	
					[酒井]イベント業界で経験して培った知識・技術を 活かし指導する	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像を効果的に表現するための、照明機器の取り扱いを始めとして、具体的な照明手法について学ぶ。						
授業形態	講義	教 室	151 教室	補助教員	なし	
毎授業の最初に、前回の復習を行い理解を深める。板書を中心に行い、ノートに書かせる。機器の写真をスクリーンで見せながら講義していくこともある。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教 科 書 教 材	舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（授業内で適宜使用）					

授業計画・内容	
●授業時間：2 単位時間/回 【前期】 1～2 回 舞台照明 1 3～4 回 舞台照明 2 5～6 回 舞台照明 3 7～8 回 舞台照明 4 9～10 回 テレビ照明 1 11～12 回 テレビ照明 2 13～14 回 テレビ照明 3 15～16 回 テレビ照明 4 ●授業時間：2 単位時間/回 【後期】 17～18 回 仕込み図の読み方 1 19～20 回 仕込み図の読み方 2 21～22 回 仕込み図の書き方 1 23～24 回 仕込み図の書き方 2 25～26 回 仕込み図の書き方 3 27～28 回 実際の仕込み 1 29～30 回 実際の仕込み 2 31～32 回 実際の仕込み 3	

評価コード	3
評価方法	・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。 ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。 （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。 （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。 ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	映像音楽表現(983)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	曾我部 進				実 務 経 験 内 容	
					なし	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
イベントや映像制作において、音楽的な演出は作品の印象を大きく左右する。初めは音楽の多様なジャンルや歴史、そして基礎的な音楽理論について学び、学生自身の音楽的感性を深める。この知識を土台として、効果音の作成や音楽編集、映像制作における音声収録（MA 作業含む）といった、実践的な制作技術を習得する。						
授業形態	講義	教 室	151 教室	補助教員	なし	
この授業は、単に知識を習得するだけでなく、音楽を通して豊かな感性を育み、深い理解へと繋がる体験をする。具体的には、事前に決めた”テーマ”をもとに学生が取り上げた音楽をスピーカーで再生し聞かせ、その場にいた全員の学生に自由に感想や意見を発言する時間を設ける。教員は、音楽の背景や作曲者の意図、歴史的背景などを解説することで、皆さんが作品をより深く味わい、自身の音楽的視野を広げられるようサポートする。聴くこと、感じること、そして自らの言葉で表現することを通して、音楽との向き合い方を実践的に学んでいく。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1～2 回 科目のガイダンス（音楽の3要素、3方面の説明）
- 3～4 回 音楽を使用した仕事
- 5～6 回 音楽の性質（メロディー、ハーモニー、リズム、構成など）
- 7～8 回 音楽のジャンル
- 9～10 回 楽器の種類
- 11～12 回 映像制作に必要な音楽理論
- 13～14 回 音響編集の基礎
- 15～16 回 音響編集の応用

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～18 回 映像表現に必要な音楽の扱い
- 19～22 回 音楽制作に必要な映像の扱い
- 23～24 回 音響制作の基礎
- 25～26 回 映像制作の音響プロダクト（素材編）
- 27～28 回 映像制作の音響プロダクト（ナレ撮り編）
- 29～30 回 映像制作の音響プロダクト（アフレコ編）
- 31～32 回 映像制作の音響プロダクト（エフェクト編）

評価コード

3

評 価 方 法

- ・定期試験（100 点満点）の点数を成績の評定とする。筆記試験を 80 点、平常点（出席および受講の状況）を 20 点の配点とする。成績の評定は、S（90～100 点）、A（80～89 点）、B（70～79 点）、C（60～69 点）、F（60 点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定が F の場合、追試験を受験する。
- ・追試験（100 点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。
 - （1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は、60 点を超えた分の点数の 10 分の 6 に 60 点を加えた点数とする。
 - （2）上述（1）以外の場合は、60 点まではその点数とし、60 点を超えた場合は 60 点とする。
- ・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1 点未満については切り上げ）を成績の評定とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	演技発声表現トレーニング(984)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	酒井 早穂				実 務 経 験 内 容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を 活かし指導する	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	2	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
演技力や表現力の基本について学ぶ。発声全般について、喉・舌などの使い方に始まり、発音の訓練なども含まれる。 さらに、アナウンストレーニングにおいては、通る声の発生方法についても学ぶ。						
授業形態	演 習	教 室	151 教室	補助教員	なし	
基本的に発声を行う。滑舌練習を最初に行い、台本やアナウンス原稿を読みトレーニングを行う。						
教 科 書 教 材	NHK 日本語発音アクセント新辞典 NHK 放送文化研究所（授業内で適宜使用）					

授 業 計 画 ・ 内 容

●授業時間：2 単位時間/回

【前期】

- 1～2 回 NHK アナウンス辞典の活用方法
- 3～4 回 滑舌練習（資料 1）
- 5～6 回 滑舌練習（資料 2）
- 7～8 回 滑舌練習（資料 3）
- 9～10 回 滑舌練習（資料 4）
- 11～12 回 指示指導 1
- 13～14 回 指示指導 2
- 15～16 回 指示指導 3

●授業時間：2 単位時間/回

【後期】

- 17～18 回 アナウンス練習 1
- 19～20 回 アナウンス練習 2
- 21～22 回 アナウンス練習 3
- 23～24 回 アナウンス練習 4
- 25～26 回 音声録音指導 1
- 27～28 回 音声録音指導 2
- 29～30 回 音声録音指導 3
- 31～32 回 発表

評価コード

11

評 価 方 法

- ・100 点を満点とし、筆記試験を 60 点、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点とする。
- ・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。
- ・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	カメラテクニック実習(985)				教 科 区 分	専門教育科目		
					必修 / 選択	必 修		
担当教員	富田 正樹				実 務 経 験 内 容			
					[富田]映像業界で撮影・映像システム構築に従事。 以上の経験を活かし講義を行う。			
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次				
	4	-	-	-				
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標								
スチール・映像双方のカメラの使用について、応用的な機器の扱いから、効果的な撮影方法まで学ぶ。								
授業形態	実習	教 室	151 教室	補助教員	なし			
カメラシステムを作成し、カメラワークの手法やレベルに応じたカメラテクニックを実践する。								
教 科 書 教 材	なし							

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：4 単位時間/回 【前期】 1～8 回 カメラの撮影練習 1（ズーム・フォーカス） 9～16 回 カメラの撮影練習 2（式典などの撮影練習） 17～24 回 カメラの撮影練習 3（合唱などの撮影練習） 25～32 回 カメラの撮影練習 4（芝居などの撮影練習） ●授業時間：4 単位時間/回 【後期】 33～40 回 スイッチャーの機能とスイッチの切り方 41～48 回 3 台のカメラを用いた中継テクニック 49～54 回 4 台のカメラを用いた中継テクニック 55～64 回 5 台のカメラを用いた中継テクニック	

評価コード	13
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	エディットテクニック実習(986)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	伊藤 有哉				実 務 経 験 内 容	
					[伊藤]ブライダル編集業務に携わってきた経験を活かし、編集のノウハウを実践的に教育する。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	4	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
映像編集に関する技術について、効果的に見せる技法を学ぶ。						
授業形態	実習	教 室	151 教室	補助教員	なし	
ノートパソコンを使用し、ジャンルに合わせた編集のテクニックを基本から応用まで磨いていく。						
教 科 書 教 材	なし					

授業計画・内容	
●授業時間：4 単位時間/回 【前期】 1～4 回 前期授業進行説明、パソコン基本操作解説、映像編集理論解説 5～8 回 Photoshop、Illustrator の基本操作解説 9～12 回 Premiere Pro、After Effects の基本操作解説 13～16 回 Premiere Pro のカット編集 17～20 回 Adobe ソフトを連携した編集 21～24 回 前期まとめ 25～28 回 前期課題テスト映像作品作成 29～32 回 前期課題テスト映像作品提出、発表 ●授業時間：4 単位時間/回 【後期】 33～36 回 後期授業進行説明、前期授業の復習 37～40 回 色加工を使用した Premiere Pro の編集 41～44 回 オリジナルデータを使用した Premiere Pro の編集 45～48 回 オリジナルデータを使用した After Effects の編集 49～52 回 オリジナルデータを使用した Adobe ソフトを連携させた編集 53～56 回 後期まとめ 57～60 回 後期課題テスト映像作品作成 61～64 回 後期課題テスト映像作品提出、発表	

評価コード	13	
評価方法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	

シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像メディア研究科 1 年

科 目 名	制作研究(488)				教 科 区 分	専門教育科目
					必修 / 選択	必 修
担当教員	石黒 誠・富田 正樹・曾我部 進・ 梅村 泰成				実 務 経 験 内 容 [富田]映像業界で撮影・映像システム構築に従事。 以上の経験を活かし講義を行う。 [梅村]テレビ業界で番組制作を担当。以上の経験を 活かし講義を行う。	
週 授 業 時 間 数	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次		
	10	-	-	-		
科 目 の ね ら い ・ 到 達 目 標						
MV や PV、プロモーション映像などの映像全般の作品制作を年間を通じて実施する。						
授業形態	実習	教 室	151 教室	補助教員	なし	
企業などの紹介ビデオの制作を企画から制作まで行う。コンテスト作品の制作にも参加し、作品作りの実践を行う。						
教 科 書 教 材	なし					

授 業 計 画 ・ 内 容	
●授業時間：10 単位時間/回 【前期】 1 ～ 25 回 企画 1 作品制作（企画～作品提出） 26 ～ 50 回 企画 2 作品制作（企画～作品提出） 51 ～ 78 回 企画 3 作品制作（企画～作品提出） 79 ～ 80 回 作品発表 ●授業時間：10 単位時間/回 【後期】 81 ～105 回 企画 4 作品制作（企画～作品提出） 106 ～130 回 企画 5 作品制作（企画～作品提出） 131 ～158 回 企画 6 作品制作（企画～作品提出） 159 ～160 回 作品発表	

評価コード	13	
評 価 方 法	・100 点を満点とし、授業時間内における実技技能を 60 点とし、平常点（出席および受講の状況）を 40 点の配点にする。 ・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。 ・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。	